

Serum adiponectin predicts fracture risk in individuals with type 2 diabetes : the Fukuoka Diabetes Registry

小森田, 祐二

<https://hdl.handle.net/2324/1866275>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



氏 名： 小森田 祐二

論 文 名： Serum adiponectin predicts fracture risk in individuals with type 2 diabetes:
the Fukuoka Diabetes Registry

(血清アディポネクチンは2型糖尿病患者の骨折リスクを予測する
：福岡県糖尿病患者データベース研究)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【背景と目的】一般集団において、血清アディポネクチンは骨折リスクに影響を及ぼすと報告されている。2型糖尿病は骨折リスク増加と関連しているが、2型糖尿病患者においても血清アディポネクチンが骨折を予測するか否かは明らかにされていない。本研究において、2型糖尿病患者における血清アディポネクチンと骨折リスクの関連を前向きに調査した。

【対象と方法】閉経後女性 1,951 名、男性 2,754 名を含む、合計 4,869 名(平均年齢 65 歳)の2型糖尿病患者を追跡調査した(追跡期間の中央値は 5.3 年)。主要アウトカムは全部位骨折および主要骨粗鬆症性骨折とした。

【結果】追跡期間中、全部位骨折は 682 名が、主要骨粗鬆症性骨折は 277 名が発症した。対数変換血清アディポネクチン1標準偏差あたりの年齢調整ハザード比(95%信頼区間)は、閉経後女性では全部位骨折 1.27(1.15, 1.40)、主要骨粗鬆症性骨折 1.35(1.17, 1.55)、男性では全部位骨折 1.22(1.08, 1.38)、主要骨粗鬆症性骨折 1.40(1.15, 1.71)であった。高アディポネクチン血症($\geq 20\mu\text{g/ml}$)の主要骨粗鬆症性骨折に対する多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は閉経後女性では 1.72(1.19, 2.50)、男性では 2.19(1.23, 3.90)であった。

【結論】閉経後女性を含む2型糖尿病患者において、血清アディポネクチン高値は全部位骨折、主要骨粗鬆症性骨折リスクの上昇と有意に関連した。